

令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第4号

令和6年6月20日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ネギアザミウマ
- 2 対象作物 白ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

【平坦地】

(1) 6月14日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：100% (平年：90.0%、前年：100%)
平均被害度：30.0 (平年：19.4、前年：26.3)

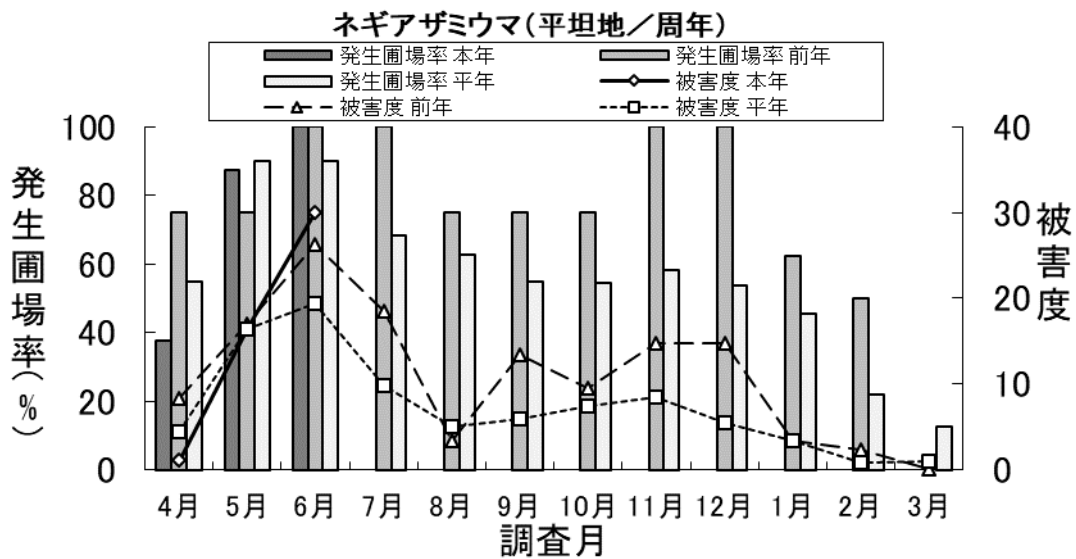


図1 病害虫発生予察巡回調査での白ネギにおけるネギアザミウマの発生推移 (平坦地)

【中山間】

(2) 6月12～17日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった(図2)。

発生圃場率：100% (平年：78.6%、前年：87.5%)
平均被害度：17.3 (平年：9.8、前年：5.2)

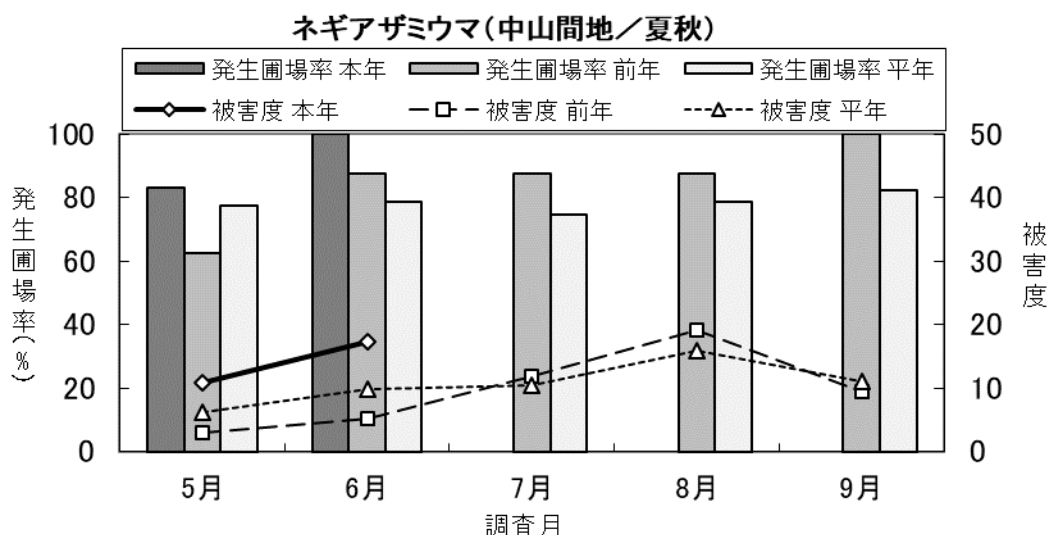


図2 病害虫発生予察巡回調査での白ネギにおけるネギアザミウマの発生推移(中山間地)

- (3) 一部地域では、本虫が媒介するえそ条斑病 (IYSV) が発生している。
- (4) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区气象台が6月13日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並20%、高い確率70%、降水量は少ない確率20%、平年並40%と予測されており、気温が高い条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) ネギアザミウマの薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)の「ねぎ」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



- (2) 圃場内および周辺の雑草はネギアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、圃場外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、圃場内の白ネギに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特に圃場の風上側の除草を心がける。
- (3) 次作以降のネギアザミウマや本虫が媒介するえそ条斑病（IYSV）の蔓延を防ぐため、残渣の処分や圃場周辺の除草を徹底する。
- (4) ネギアザミウマは、白ネギ以外にもユリ科、アブラナ科、ウリ科、ナス科、キク科及びバラ科など多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。